

小林一三 （ほやし） 實業家。明治六年一月二日山梨縣生れ、昭和二十一年一月二十五日歿（八七三—九五七）。號急山人、箕有山人、逸山、逸翁、露溪學人。慶應義塾卒。三井銀行を経く、明治四十年箕面有馬電氣軌道株式會社（のち阪神急行電氣鐵道株式會社と改稱）を創立、百貨店等も經營した多角的鐵道經營の先驅者。大正二年寶塚少女唱歌隊（のうち寶塚少女歌劇團）を創設、爾來東京寶塚劇場、東寶映畫の設立、尚工務主任。戰後國務相、戰災復興院總裁歴任。

著書『曾根崎心中』（急山人名、増補第二版・大正五年二月五日高岡秀雄刊、叢山書店發賣）、『歌劇十曲』（大正六年十月二十八日之文社）、『日本歌劇概論』（大正七年九月一日兵庫・寶塚少女歌劇團出版部「寶塚叢書」）、『雅俗山莊漫筆・第一』（昭和七年六月五日發行）、『奈良のはなごころ』（昭和十年十月二十日圖書房）、『産業は國營すべきか』（昭和十一年七月二十四日今日の問題社）、『次々來るもの』（昭和十一年十一月十七日斗南書院）、『映畫專業經營の話』（昭和十一年四月一日東洋經濟出版部「東洋經濟パンフレット」）、『北支經濟は如何に建設すべきか—附戰時國債は五千億か、百億か』（昭和十一年十月十五日今日の問題社）、『蘭印を斯く見たら』（昭和十一年二月十九日斗南書院）、『芝居のへび』（昭和十七年十一月十五日斗南文學出版部）、『復興と次々來るもの』（昭和二十一年十月二十日大阪・國民公會）、『雅俗三昧』（改装正誤本・十一年十月二十日大阪・國民公會）、『雅俗三昧』（改装正誤本・



昭和二十一年十一月二十五日大阪・雅俗山莊）、『曾根崎艶話』（昭和二十二年十月十日芙蓉書房）、『逸翁らくく書』（昭和二十四年六月十五日

大阪・梅田書房）、『新茶道』（昭和二十六年十一月十五日文藝春秋新社）、『私の人生観』（昭和二十七年一月二十日要書房）、『逸翁自敘傳』（昭和二十八年一月五日産業經濟新聞社）、『私の見たアメリカ・ヨーロッパ』（昭和二十八年六月二十日要書房）、『私の專業觀』（昭和二十九年一月二十日要書房）、『宝塚漫筆』（昭和二十年六月二十日東業之日本社）、隨筆『茶』（八月著、昭和二十二年七月十日春秋社）、『逸翁自敘傳―青春とこゝろ―阪急言語の』（昭和五十四年七月二十日大阪・阪急電鉄株式会社）等。
 文獻の、田中仁著『小林（三）今自筆集くまで』（昭和十一年七月）『二十日信正社』、清水雅著『小林（三）翁の教えられるもの』（昭和二十二年七月二十日大阪・梅田書房）、『二字晴耀著』『小林（三）』（昭和二十九年十一月）二十日日本書房『現代伝記全集』（三）神良の著『小林（三）・独創の経営―常識と打ち破るの男の全研究』（昭和五十八年六月）『PHP研究所「PHP BUSINESS LIBRARY」』等。

